



世界史 B 問題

はじめに、これを読むこと。

1. この問題用紙は、13 ページまでである。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか、受験票と照合し、確認すること。
3. 解答用紙の所定の欄に氏名を記入すること。
4. 解答は、すべて解答用紙の所定の欄にマークするか、または所定の欄に記述すること。
5. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれも HB・黒)で記入しなさい。
6. 訂正は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
7. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。また所定以外のところには、絶対に記入しないこと。
8. 問題に指定された数より多くマークしないこと。
9. 解答用紙は、持ち帰らないこと。
10. この問題用紙は、必ず持ち帰ること。
11. 試験時間は、60 分である。
12. 解答をマークする場合の注意。

(マーク記入例)

良い例	悪い例
	

〔 I 〕 次の文章をよく読み、下記の設問に答えなさい。

ヨーロッパに住む人々のアジア理解は、ギリシアに由来するといつてよい。ヘロドトスは、ペルシア戦争の歴史を書いたが、当時彼はギリシア最大の旅行家でもあり、実際にフェニキア諸都市、バビロン、エジプトなどの地を旅行しており、その著書『歴史』には、彼が自らの目で見たり耳で聞いたりした地誌、歴史物語などが盛り込まれている。ギリシア世界における画期的出来事はアレクサンドロス大王の東方遠征であった。これによって、ギリシア人の勢力範囲は、中央アジアのバクトリアからインダス河畔にまで達した。ヘレニズム国家の一つセレウコス朝は、インドのマウリヤ朝との間で外交使節を交換した。ギリシア人メガステネスは、マウリヤ朝の首都 を訪れ、長く滞在し、帰国後『インド誌』を書いている。同書は、インド案内として広く読まれたが、原典はすでに失われていて、伝わっていない。

11世紀末以後、およそ2世紀にわたり繰り返された十字軍の遠征は、ヨーロッパ人にとって、東方への関心を助長する契機となった。だが、強力なセルジューク朝やアイユーブ朝との戦いに阻まれ、それ以上内陸に浸透しえず、東方についての知識や情報は、イスラーム世界を介して得るほかなかった。13世紀、モンゴルが勃興し、13世紀中葉、ロシア南部にキプチャク＝ハン国、西アジアにイル＝ハン国が成立、さらに中国に^a元朝が樹立され、ユーラシア大陸にまたがる大帝国が樹立された。モンゴル帝国ではその広大な領域に と呼ばれる駅伝制をととのえ、交通の発達と内陸貿易の活発化をもたらした。そのような交通ルートを通っての貿易には、おもにムスリム商人が活躍した。『三大陸周遊記』を著したモロッコ出身のイブン＝バトゥータは、そのような商路やムスリムコミュニティ間のネットワークを使って、西アジア、中央アジア、インドを旅し、さらに中国をも訪れたと言われている。

キプチャク=ハン国の基礎を築いたバトゥは、1236年から42年、ヨーロッパに遠征し、その部隊は1241年、ワールシュタットにおいてドイツ・ポーランド諸侯連合軍を撃破し、さらにハンガリーの首都ペストをも攻略し、ヨーロッパ世界に大きな不安と脅威を与えた。モンゴルの再来を防ぐべく、教皇インノケンティウス4世は、フランチェスコ会の修道士をモンゴルに派遣し、その改宗を目指した。同じくフランス国王ルイ9世も、フランチェスコ会修道士をカラコルムの **ウ** (在位1251~1259)のもとに派遣した。彼らは外交使節ともいべきもので、モンゴルの地での布教はかなわなかった。また、彼らの見聞録はモンゴルの実情を初めてヨーロッパに伝えたものとして知られている。ウイグル人であり、かつ元朝の都、大都に生まれ、ネストリウス派司祭であったラッパン=ソーマ(1220頃~1294)は、1275年、隊商に加わり、イエルサレム巡礼に出発した。中央アジアを踏破し、バグダードに到った。だが、動乱のためにイエルサレム巡礼は果たせなかった。1287年、彼はイル=ハン国王アルグン=ハンの命を受け、ローマを訪れ教皇ニコラウス4世に、さらにフランスに赴き英・仏両国王に謁見した。この訪問は、教皇が使節を元朝に派遣する契機となった。その使節、フランチェスコ修道会の **エ** (1247~1328)は、海路を経て、1294年、大都に到着、成宗に謁見し、教皇の書簡を呈した後、大都の大司教に就任し、カトリック布教に従事した。

大航海時代以降、東に向かったヨーロッパ人のなかでは、主にイエズス会などのカトリック宣教師たちが数多くの報告を書いており、その後のヨーロッパ人の東方理解にさまざまな影響を与えている。フランス人医師ベルニエは、17世紀中葉、エジプト、エチオピアを訪れた。彼はムガル朝第5代皇帝 **オ** (在位1628~58)の治世末期からアウラングゼーブ帝初期にかけて、インドに十年ほど滞在し、宮廷の侍医としてひろく見聞をおさめた。彼は帰国後インドの実情を記した旅行記を出版したが、そのなかでインドにおける土地私有の不在を指摘し、その後のヨーロッパ社会科学のアジア理解に影響を与えた。また、植民会社や植民地行政官の報告も重要な情報源であった。ナポレオン戦争のさなか、イギ

リスがジャワを占領し、そのジャワの行政官となったラッフルズ(1781~1826)は、ジャワのオランダへの返還後、1819年、わずかな住人しか住んでいなかった [カ] 島をイギリスのために獲得し、その後の [カ] 発展の基礎を築いた。彼は帰国後、『ジャワ誌』を著し、好評を博した。

19世紀後半から20世紀にかけて、地理学、民族学、人類学、動植物学などの領域の研究者、学術調査団が、つぎつぎとアジアの地を訪れた。スウェーデンの地理学者 [キ] は、1885年以来、中央アジアから中国への探検を試み、東トルキスタンのタリム盆地からロプノールを数回調査し、1901年に楼蘭の遺跡を発見して世界を驚かせた。

イギリスとの南京条約、フランスとの [ク] 条約などによる五港開港以後、欧米の外交官や宣教師のほか、商人、ビジネスマン、技術者、ジャーナリスト、旅行家などが中国を訪れ、中国を中心とする東アジアの情勢について様々な情報を欧米にもたらした。開港場には、中国の主権が及ばない [ケ] がつくられ、さらに多くの外国人が居住することを可能にした。

一方、中国の側も、とくに辛亥革命以後、政府機関を中心として外国人顧問を招くようになった。異色であったのは1920年代中葉に、中国に派遣されたソ連顧問団であった。もともとそれら顧問たちは、国共合作にもとづき、ポロディンが国民党政府顧問として中国に赴任したおり、相前後して派遣された人々であった。彼らは孫文のもとで、またその死後は [コ] 国民政府(1925年7月成立)のもとで、国民革命軍や、蔣介石を校長として設立された中国国民党の [ク] 軍官学校などにおいて顧問として働いた。そのなかで、社会科学の訓練を受けた人たちは、農村調査に従事し、その後の中国社会科学研究的先駆けとなった。

設問 1 文中の空欄(ア～コ)にもっとも適する語句を記入しなさい。

設問 2 文中の下線部(a～e)に関する下記の設問に、漢字で解答しなさい。

- a 元朝を創立したフビライのもと、イスラーム天文学に刺激され、授時暦を作成した元の科学者は誰か、記しなさい。また水利学に秀で、フビライに都水監に任ぜられたように、水利工事においてもすぐれた業績をあげている。
- b ネストリウス派キリスト教が中国に到来したのは、唐代初期である。781年、同教の伝来と流行をたたえて、長安に建てられたモニュメントの名称を記しなさい。
- c 明代後期以降、イエズス会の布教により、西洋学術が中国にもすこしずつ浸透していく。そのような影響のなか、キリスト教徒となり、『農政全書』を編著し、西洋の暦法をもとに作成した『崇禎暦書』を編纂した明末の学者、官僚は誰か、記しなさい。
- d 清代において典礼問題の発生後、典礼否認派の伝道と入国が禁止されたが、その後キリスト教を禁止した皇帝の名前を記しなさい。
- e 帝国主義列強の集中する上海を中心に買弁資本として発足し、中国経済界を支配するにいたった資本家の一団。銀行団を中心とする財閥で、蔣介石の上海クーデター(1927年)を背後で支えた。その財閥の名前を記しなさい。

〔Ⅱ〕 次の文章(A～E)をよく読み、文中の空欄(1～10)にもっとも適する語句を記入しなさい。

A ユダヤ人は、ヨーロッパにおいては中世から迫害されてきた。第1回十字軍もユダヤ人を虐殺したし、第4回 公会議(1215年)では、ユダヤ人に対する差別的な扱いが決められた。イベリア半島では、ユダヤ教からカトリックに改宗した者は、本心ではユダヤ教を信じているのではないかと疑われ、蔑称として と呼ばれることもあった。

B 一方、キリスト教内部にも異端が存在した。しかし異端とされた単性論派であったにもかかわらず、その後もエジプトで生き残った 教会のような例もある。だが、中世には異端とされた教えが生き延びることは難しく、チェコでカトリック教会の改革を唱えた のように、異端とされた者が処刑されることもあった。また南仏のカタリ派のように十字軍によって鎮圧された異端もある。

C 十字軍は、聖地エルサレムをイスラーム支配から奪回する目的で結成された。十字軍の動きの中で、宗教騎士団も結成された。たとえば1119年に設立された 騎士団がある。この騎士団はフランス王フィリップ4世に弾圧され、1312年に解散させられた。また第4回十字軍の輸送はイタリアの都市 が担当し、結果的にイスラームと戦うのではなく、コンスタンティノーブルを占領することになった。

D キリスト教の影響が強い中世においては、学問にもキリスト教の影響が強かった。スコラ学はキリスト教会の教理にギリシア哲学が結び付けられて体系化されたものである。カンタベリ大司教であり、スコラ学の父ともされる は、普遍論争において実在論を唱えたことで知られている。一方、スコラ哲学の形成にはイスラーム圏の哲学者たちも大きな影響を与えている。コルドバに生まれ、ムワッヒド朝に仕えた哲学者 が書いたアリストテレスの著作の注釈は、中世ヨーロッパにおいて重用された。

E 宗教改革によってプロテスタントが誕生し、西欧のキリスト教はカトリックとプロテスタントに分裂することになった。プロテスタントはさらに内部でも様々な意見の対立があった。カルヴァン派はドイツ・フランス・オランダなどで広まったが、スコットランドでも普及した。スコットランドのカルヴァン派は、その教会組織を語源とする の名で呼ばれる。一方、イングランドは独自のイギリス国教会を立ち上げた。1549年には、その礼拝儀式と教義を規定した書である が作られた。その教えはカルヴァン主義に近いが、制度面ではカトリックと類似点があった。

〔Ⅲ〕 次の文章(ア～エ)をよく読み、括弧(①～④)のそれぞれの語句(A～D)からもっとも適するものを一つ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

ア オーストリアに併合された①(A ポスニア, B スロヴェニア, C クロアチア, D モンテネグロ)の中心都市サライエヴォで、1914年6月28日、オーストリア皇位継承者フランツ＝フェルディナント大公夫妻が暗殺されたことが導火線となって、オーストリアはセルビアに宣戦布告した。やがて、セルビアを支援するロシアが総動員令を発すると、ドイツはロシア・フランスにそれぞれ宣戦布告し、イギリスもドイツに宣戦布告して、同盟国側と協商国側との間での帝国主義戦争が始まった。日本は日英同盟を理由に、中国におけるドイツの権益の中心であった山東半島の②(A 新界, B 威海衛, C 濟南, D 青島)を攻略し、やがて戦線はヨーロッパからアジア・アフリカ・太平洋まで拡大し、第一次世界大戦へと発展していった。

イ ドイツは1914年9月、北フランスでの闘いに敗れて侵攻を阻止されたことで、西部戦線はこれ以後、一進一退の塹壕戦へと突入した。東部戦線ではヒンデンプルクの率いるドイツ軍が、1914年8月、東プロイセンでの戦いでロシア軍を撃退し、ポーランドなどロシアの領内に進出したが、現地での地理的・気候的諸条件などの影響により、決着はつかなかった。さらに、西部戦線では1915年4月、③(A マルヌ, B タンネンベルク, C フィウメ, D イープル)の戦いでドイツ軍ははじめて毒ガスを使用し、1916年6月からのソンムの戦いでは、イギリス軍の戦車をはじめて投入された。また同年2月から12月まで、西部戦線の激戦地として知られるヴェルダンでは、要塞をめぐる激しい攻防戦が展開され、独仏両軍の死傷者は70万人に達した。この攻防戦に失敗したドイツでは、1916年8月には、ヒンデンプルク・ルーデンドルフが軍部独裁体制を構築し、またイギリスでは1916年12月、④(A アスキス, B ロイド＝ジョージ, C チャーチル, D マクドナルド)が、挙国一致内

閣の首相となって、とりわけ経済に対する国家の統制を強めていった。当初、中立の立場にあったイタリアは、領土問題でオーストリアと対立していたが、イギリスなどがトリエステを含む「未回収のイタリア」の領有を約束すると、1915年5月、オーストリアに対して宣戦布告した。イギリス・フランス・ロシアは、1916年5月、戦後のオスマン帝国の分割を約束し、パレスチナを国際管理地域とする⑤(A ロカルノ条約, B フセイン・マクマホン協定, C ロンドン秘密条約, D サイクス・ピコ協定)を結んだ。さらに1917年11月、イギリスの外相バルフォアは、パレスチナにユダヤ人の民族的郷土の建設を約束する宣言を発した。

ウ 一方、ロシアでは、大戦が勃発すると、国会はボリシェヴィキとメンシェヴィキ以外、政府との戦争協力体制に入った。だが、ポーランドなどでの大敗を経て、挙国体制が動揺し、厭戦気分が高まり、1916年夏には、労働運動が高揚した。ロシア帝国の首都、ペトログラードの女性労働者が1917年3月、「パンをよこせ」と訴えるデモをはじめると、デモは全市的なゼネストに発展して、兵士もこれに合流し、各地には労働者・兵士のソヴィエトが組織された。やがてソヴィエトの動きを警戒した国会は、自由主義諸党派を中心に臨時政府を成立させ、皇帝⑥(A ニコライ1世, B ピョートル1世, C エカチェリーナ2世, D ニコライ2世)は退位した。帝政にかわった臨時政府も、連合国の一員として戦争に勝利することを目標とした。ボリシェヴィキは、当時はまだ少数派であったものの、1917年4月、レーニンが亡命先のスイスから帰国すると、戦争の即時中止を求め、労働者と農民によるソヴィエトの権力奪取を訴えた。臨時政府は⑦(A 立憲民主党, B ロシア社会民主労働党, C 社会革命党, D ロシア共産党)のケレンスキーを首班として、自由主義者と社会主義者との連立政府を成立させて、態勢を立て直そうとした。だが、ついに11月7日、レーニン・トロツキーらが武装蜂起し、この臨時政府は倒れ、いわゆる十月(十一月)革命が実現した。

エ 第一次世界大戦の講和会議は1919年1月、パリで開かれたが、その枠組みを作ったのは、アメリカの大統領である⑧(A セオドア＝ローズヴェルト、B クーリッジ、C フーヴァー、D ウィルソン)であり、その構想は秘密外交の廃止、海洋の自由、経済障壁の撤廃などからなる十四カ条によって示された。会議では、対独講和の具体的内容が検討されたものの、ドイツとの交渉は難航し、連合国側は同年6月、最後通告の形でドイツに受諾を迫り、ようやくドイツはヴェルサイユ条約に調印した。これによって形成された国際体制はヴェルサイユ体制と呼ばれ、それを統括する場として国際連盟が設立され、その本部をスイスのジュネーブに置き、さらに国際労働機関と国際司法裁判所がそれに付置された。その結果、ドイツは全植民地を国際連盟に引き渡し、西部国境側では、⑨(A シュレジエン、B アルザス・ロレーヌ、C ザール地方、D ルール地方)をフランスに返却して、東部国境側では、ポーランド回廊を外海への通行路として割譲した。さらに1921年には、ドイツに対して1320億マルクの賠償が決定されたが、このことがドイツに対する過大な負担になることは、すでに当時から憂慮されていた。他の同盟国側の敗戦国との講和条約も、ヴェルサイユ条約に準じたものとなったが、このうち対オーストリア講和条約は、1919年9月、⑩(A ヌイイ条約、B セーヴル条約、C トリアノン条約、D サン＝ジェルマン条約)として結ばれ、これによってオーストリアは、戦前と比べ、面積・人口ともに4分の1に縮小され、ドイツ人のみの共和国となった。

[IV] 次の文章をよく読み、下線(1～10)に関連するそれぞれの問(1～10)にもっとも適するものを(1～4)の中から一つ選び、解答欄にマークしなさい。

近世ヨーロッパにおいては、国王が絶対的な権力を持っていると言われていた。しかし現在では、貴族¹・聖職者²などの身分やギルドをはじめとする中間団体(社団)に大きな特権が認められており、王の直接的な支配は不十分であったと考えられている。典型的な絶対主義国家と言われていたフランス³でも、官僚は売官制であり、特権を持った地方もあり、決して王の権力が直接行きわたっているわけではなかった。イギリスのチューダー朝⁴も絶対王政を確立したとされていたが、国王の権力がそれほど強かったわけではない。

18世紀になると啓蒙主義⁵などの登場により、それまでの価値観は変わっていく。啓蒙専制君主と呼ばれる君主は、上からの近代化を進め、それによって社団の特権も制限されるようになった。プロイセンのフリードリヒ2世⁶は、学芸の振興にも努める一方で、官僚制・軍隊の強化を進めた。オーストリアのヨーゼフ2世⁷は、農奴解放令⁸や宗教寛容令などの政策を展開している。

一方ロシアでは19世紀になって、アレクサンドル2世⁹が農奴解放令を發布した。またアメリカではリンカンが南北戦争¹⁰中に奴隷解放宣言を行ない、これは1865年に憲法で認められた。しかし人種差別はその後にも長く続いた。

問1 下線部1に関連して、17世紀のフランスで起こった貴族がかかわる反乱について述べた文として、もっとも適切なものを選びなさい。

- 1 ヴァンデー県で、農民と貴族の反乱が起こった。
- 2 ヴァンデー県で、都市民と貴族の反乱が起こった。
- 3 王権の伸長に反対するフロンドの乱が、パリで起こった。
- 4 王権の伸長に反対するフロンドの乱が、南フランスを中心に起こった。

問 2 下線部 2 に関連して、フランス革命期に行われたキリスト教否定運動について述べた文として、もっとも適切なものを選びなさい。

- 1 キリスト教否定運動の中心的人物に、エベールがいる。
- 2 1789 年から、理性の崇拜というキリスト教を廃した祭典が行われた。
- 3 「ラ＝マルセイエーズ」は、キリスト教否定運動の中から生まれた。
- 4 理性の崇拜は、ナポレオンが皇帝になるまで行われた。

問 3 下線部 3 に関連して、ルイ 14 世時代の戦争や条約について述べた文としてもっとも適切なものを選びなさい。

- 1 ルイ 14 世はドイツのファルツ選帝侯領の継承権を主張して戦争を起こし、継承権を獲得した。
- 2 スペイン継承戦争の講和条約であるユトレヒト条約では、ルイ 14 世の孫の王位継承は承認されたが、フランスとスペインの合邦は禁止された。
- 3 ラシュタット条約では、フランスにスペイン領ネーデルラントやミラノ・ナポリ・サルデーニャの領有が認められた。
- 4 オランダ侵略戦争では、フランスはオランダの大半を領有することになった。

問 4 下線部 4 に関連して、チューダー朝時代のイギリスで起こった出来事について述べた文として、もっとも適切なものを選びなさい。

- 1 チューダー朝最初のイギリス王は、ヘンリ 8 世である。
- 2 エリザベス 1 世は、私拿捕船に外国船略奪の許可を与えた。
- 3 トマス＝モアがエリザベス 1 世によって、大法官として重用された。
- 4 エリザベス 1 世の時代に、星室庁裁判所が設立された。

問 5 下線部 5 に関連して、啓蒙主義や啓蒙主義者について述べた文として、もっとも適切なものを選びなさい。

- 1 『百科全書』の編纂で知られるダランベールは、哲学者・数学者であった。
- 2 ルソーの代表作の一つに、『哲学書簡』がある。
- 3 ヴォルテールの代表作の一つに、『ペルシア人の手紙』がある。
- 4 『統治二論』はホブズスの著作である。

問 6 下線部 6 に関連して、18 世紀のプロイセンについて述べた文として、誤っているものを選びなさい。

- 1 スペイン継承戦争の際に神聖ローマ帝国側で参戦し、公国から王国への昇格を認められた。
- 2 「君主は国家第一の僕」という言葉は、フリードリヒ 2 世(在位 1740～86)が言ったとされている。
- 3 フリードリヒ 1 世(在位 1701～13)は、徴兵制をしき、多くの兵力を整備して「軍隊王」と呼ばれた。
- 4 ポーランドの第 1 回分割に参加した。

問 7 下線部 7 に関連して、マリア＝テレジアとヨーゼフ 2 世の治世下のハプスブルク家領下における音楽について述べた文として、もっとも適切なものを選びなさい。

- 1 ハイドンが活躍した。
- 2 シューマンが、多くのピアノ曲を残した。
- 3 リストが技巧に富んだピアノ曲や交響詩を残した。
- 4 チェコ民族運動に参加したスメタナの代表作は、「わが祖国」である。

問 8 下線部 8 に関連して、宗教の自由にかかわる会議・条約・法について述べた文として、誤っているものを選びなさい。

- 1 アウクスブルクの宗教和議では個人の信仰の自由は認められなかった。
- 2 アンリ 4 世がナントの王令を發布し、新教徒に旧教徒とほぼ同等の権利を与えた。
- 3 ウェストファリア条約では、カルヴァン派は認められなかった。
- 4 イギリスの審査法では、公職就任者は国教徒に限ることが定められた。

問 9 下線部 9 に関連して、アレクサンドル 2 世の治世下のロシアの出来事について述べた文として、誤っているものを選びなさい。

1. クリミア戦争が開始された。
2. トゥルゲーネフが『父と子』を発表した。
3. ナロードニキの思想が、学生・青年の間に広まった。
4. ロシア領ポーランドの民族主義者が反乱を起こした。

問10 下線部 10 に関連して、南北戦争前後のアメリカについて述べた文として、もっとも適切なものを選びなさい。

1. 戦争中に南部諸州は黒人取締法を發布した。
2. この戦争中に、ホームステッド法が發布された。
3. K・K・K(クー=クラックス=クラン)は、南北戦争開始以前に設立されている。
4. 南軍の司令官は、グラントであった。

〔V〕 アメリカのニューディール政策について、3行以内で説明しなさい。